

令和7年秋の外国人叙勲 チリ受章者

氏名： エルスベット・ゼンデル・バッフマン
通称 チェピータ・デ・ブラボ
(Sra. Elsbeth Zehnder Bachmann - Chepita de Bravo)

年齢： 92歳

住所： チリ国サンティアゴ首都圏州サンティアゴ
県ラス・コンデス区
功績： チリにおける生け花の普及及び日本・チリ間
の友好親善に寄与

勲章： 旭日双光章

国籍： チリ



【主要経歴】 元 いけばなインターナショナル・サンティアゴ支部支部長

【主な功績】

エルスベット・ゼンデル・バッフマン（通称 チェピータ・デ・ブラボ）氏は、約 60 年にわたり生け花の研究、実践および普及に専念し、文化を通じて日本とチリ両国の相互理解と友好の促進に顕著な貢献をしてきた。1966 年に草月流で生け花を学び始め、1991 年には同流派チリ支部の会長に就任し、日本の伝統芸術である生け花の教育と普及に対して一貫した情熱と献身を示してきた。

その長い経歴の中で、チリ国内の生け花界において数々の重要な役職を歴任した。1970 年以降、いけばな・インターナショナル・サンティアゴ支部の会長を 3 期にわたり務め、通算 6 年間その活動を指導した。さらに 2000 年から 2013 年にかけては、日本本部より正式に任命され、小原流チリ支部の会長として指導的役割を果たした。2013 年以降は副会長として現在も精力的に教育および芸術活動を行っている。

その輝かしい経歴の中で、展示会、講演会、デモンストレーション、ワークショップなど、1000 件を超える活動に参加し、500 人以上の門下生を育成

した。チェピータ氏の献身的な努力は、チリにおける生け花の普及において極めて重要な役割を果たし、日本文化の美的感性と精神性を広くチリ国民に伝えることに大きく寄与した。

創作活動においては、日本の神話、精神文化、伝統的な物語などの要素を花の構成に取り入れ、さらに音楽、照明、映像などを融合させることで、独自の芸術性と表現力を備えた生け花作品を創り出している点が特筆される。

また、その普及活動は学術・芸術の枠を超え、メディアを通じて広く一般社会にまで及んだ。1970年代から1980年代にかけて、チリの複数のテレビ局番組で装花を担当し、また新聞や雑誌のインタビュー・寄稿などを通じて、生け花の魅力を広く紹介した。1976年には著書『生け花を学ぶ (Aprendiendo Ikebana)』を出版した。